

第4学年社会科学学習指導案

平成27年10月15日(木)

第5校時

四年部会研究主題

よりよい地域社会について考えようとする子供の育成
～自分とのかかわりで地域社会をとらえ、表現しながら考えを深める指導の工夫～

1 小単元名 けいさつの仕事と人々の協力

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

警察を中心とした事故発生時の対処や、交通事故の防止及び防犯に対する人々の諸活動について調べ、これらの活動に従事する人々や地域の人々の工夫や努力を考え、表現することができる。

(2) 観点別評価規準

ア：社会事象への 関心・意欲・態度	イ：社会的な 思考・判断・表現	ウ：観察・資料活用の 技能	エ：社会的事象について の知識・理解
① 事故発生時の対処や、 事故を防ぐ工夫について 関心をもち、進んで 調べようとしている。	①事故を防ぐための諸活 動を調べるための学習 問題や学習計画を立 て、見通しをもってい る。	①事故発生時の対処の 様々な人々の工夫につ いて、資料や見学など で情報を集め、まとめ ている。	①事故発生時に関係諸機 関が連携して対処して いることについて理解 している。
②事故を防ぎ、安全な町 づくりについて考えよ うとしている。	②既習事項を再構成し、 安全なまちづくりにつ いての自分なりの考え を適切に表現してい る。	②事故を防ぐための様々 な人々の工夫につい て、資料や見学などで 情報を集め、まとめて いる。	②警察をはじめ、様々 な人々の工夫と協力によ って安全な暮らしが守 られていることを理解 している。

3 小单元について

本小单元は学習指導要領第3学年及び第4学年の以下の点を踏まえて設定した。

『小学校学習指導要領 社会科』 第3学年及び第4学年の目標(1)(3)

- (1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。
- (3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

『小学校学習指導要領 社会科』 第3学年及び第4学年の内容(4)ア イ

- (4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係諸機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

『小学校学習指導要領 社会科』 第3学年及び第4学年の内容(4)内容の取扱い

- (4) 内容の(4)の「災害」については、火災、風水害、地震などの中から選択して取り上げ、「事故の防止」については、交通事故などの事故防止や防犯を取り上げるものとする。

本小单元では、地域社会における事故防止のための取組に従事する警察や地域の人々の工夫や努力を調べることを通して、地域社会の安全を守るために人々が協力し合っていることに気付き、自分もその一員として安全な生活の維持について考えられるようにする。

本单元は、大单元「安全なくらし」の一小单元である。「安全なくらし」は「消防の仕事と人々の協力」及び「警察の仕事と人々の協力」で成り立っている。本学級の児童は、「消防の仕事と人々の協力」をすでに学習している。そのため、本小单元の展開については学習問題の作り方や学習計画の立て方、調べ方などの学習方法及び、社会的事象の見方や考え方についても前小单元の学習を生かすよう助言し、児童のより自立的な学習を促したい。

また、本小单元は事故の防止で児童が巻き込まれやすい交通事故や犯罪を取り上げるため、本部会研究副主題にある「自分とのかかわりで地域社会をとらえる」ことに適した单元であるといえる。本小单元の学習指導を通して、地域の安全を守るために警察を中心とする関係諸機関が連携したり、地域の人々が協力したりしている姿を具体的にとらえさせ「自分自身ができること。」「気を付けるべきこと。」「ルールの大切さ。」などへの意識を高めたい。そして、単元の終末ではより安全な地域にするために自分ができることや皆に呼びかけたいことを発信する場を設けた。

こうした学習を展開するために、各学習段階に応じた目指す児童像を設定し、それに迫るために有効と思われる学習活動を検討し、自己の考えを表現し合いながら考えを深める指導を工夫したい。

特に本小单元では、自己の考えや他者の考えを表現したり、比較・関連させたりする手段としてシンキングツールを活用することにした。シンキングツールは、本学級の児童がこれまで使用してきた図表である。何についてどのように考えるのかが明確な図表であり、考え方によって使用する図表が異なる。また、シンキングツールの形は、考え方をイメージしやすく、本学級の児童もそのよさに気付き始めている。自分の考えを説明する際材料にもなるので、ツールの使用は、表現し合いながら考えを深めるのに有効な手だてになると考えた。もちろん、ツールありきで使用するのではなく学習のねらいを達成するのに適した手段であるかどうかを検討し、付箋の活用や手紙、作品化などの表現活動も取り入れる。

4 知識の構造と育てたい子供の姿

【学習指導要領】

第3学年及び第4学年の内容(4)ア イ

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係諸機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

【中心概念】 (丸数字は取り扱う回数)

警察を中心として、様々な人々の協力と努力によって、私たちの安全が守られている。私たち自身も安全を守るために努力をすることが大切である。⑧

【具体的知識】

・事故や事件は、人々の安全なくらしを脅かすものであり身近な問題である。①②

・警察署の人々は、通報を受けると事故や事件に迅速に対処できるように、関係機関と連携し、協力している。③

・警察署の人々は事故や事件から人々の安全を守るために日頃から様々な備えをしている。④⑤

・地域には、事故や事件を未然に防ぐための施設・設備が計画的に設置されている。⑥

・地域の人々は、事故や事件を未然に防ぐための諸活動を協力して行っている。⑦

・自分たちの家庭や地域を事故や事件から守るために自らできることがある。⑧

・警察の仕事も消防の仕事も人々の安全なくらしを守るためのものであり、一人ひとりが安全に対する意識を高め、協力することが大切である。⑨⑩⑪

【用語等】

・事件
・事故

・現場
・通信指令センター
・交番
・一〇番

・訓練
・防犯
・パトロール
・交通安全運動

・交通標識
・ガードレール
・カーブミラー
・横断歩道

・街頭防犯カメラ
・交通安全当番
・見守りパトロール
・交通少年団
・事故・事件防止ポスター

・交通ルール
・防犯ブザー
・子ども一〇番の家

ふかめる

【育てたい子供の姿】

人々の安全を守る仕事の意味に気付き、自らも安全に過ごしていこうとする子供

5 児童の実態

6 研究主題に迫る具体的な手だて

四年部会研究主題

よりよい地域社会について考えようとする子供の育成
～自分とのかかわりで地域社会をとらえ、表現しながら考えを深める指導の工夫～

本部会では、全体テーマを踏まえた上で上記の部会研究主題を設定し、具体的な手だてを講じ検証することにした。

次の表に「社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発」及び「社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫」を各学習過程に沿って整理した。

また、「社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫」については、次の3点を意識して評価する。

- ① 各学習過程において目指す児童像(※次ページ表中)を設定し、それに達していない児童については支援の方法も具体化しておくことで、評価と個に応じた指導につなげる。
- ② よりよい社会の形成に参画しようとする意識の高まりについて、学習した成果を生かしながら、これからのよりよい地域社会の具体例やその実現のために自分たちができることを考え、表現しているかという観点で見取り、指導に生かす。
- ③ 地域の社会的事象に対する見方・考え方の深まりについて、学習してきたことをもとにそれらと比較・関連付けたり、異なる視点から見つめ直したりして自分の言葉で考えを表現しているかという観点で見取り、指導に生かす。

学習過程	社会認識を深め、参画意識を培う 教材の開発	社会認識を深め、参画意識を培う 指導の工夫	社会認識の深まりや社会参画への 思いを見取る評価の工夫
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 自分と地域社会とのかかわりが意識できる教材：絵・文章資料「身近な事件・事故の危険①」 絵・写真資料「事故発生の通報をもし自分がするとしたら③」 	<ul style="list-style-type: none"> 追究意欲を高める学習問題を作り、その意欲が継続するような指導の工夫：児童の疑問や予想を確かめたいという思いを高めながら学習問題を作り、学習計画を立てる。② シンキングツール（KWLシート）を使って自分の考えを深めることができる指導の工夫：「知っていること」「知りたいこと」「学んだこと」を区別して記入し、整理する。② 	<p><目指す児童像></p> <p>地域や自分たちの生活には事故や事件など、様々な危険があることを具体的にとらえ、安全を守る人々の取組やその必要性に関心を高め、誰が、何を、どのように行っているのか消防の学びを生かして調べようとしている。</p>
調べる	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会において実際に社会に参画している人々の工夫や努力、思いや願いが分かる教材：関連図「警察を中心とする関係諸機関の連携③」写真・文章資料・見回りパトロールの方の話「地域の人々の協力⑦」 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に社会に参画している人々と交流する指導の工夫：警察署の見学④⑤及び地域ボランティアの人々との交流⑦ 関連図を使って自分の考えを深めることができる指導の工夫：事故発生時の連携の様子を調べる。③ 	<p><目指す児童像></p> <p>交通事故や事件から人々の安全を守るための取組について、関係諸機関や地域の人々の取組や協力などについて、具体的に調べ、分かったことや考えたことを図や文章等に表現し、交流しながら事実認識を確かなものとしている。</p>
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の特色やよさが見える教材：写真・文章資料・見回りパトロールの方の話「警察・役所・地域の役割分担・連携・協力のよさ⑧」 	<ul style="list-style-type: none"> シンキングツール（関連図）を使って自分の考えを深めることができる指導の工夫：安全な暮らしを守るために警察・役所・地域が連携していることを調べる。⑥⑨ 	<p><目指す児童像></p> <p>事故や事件から人々の安全を守るために、関係諸機関や地域の人々が連携、協力しながら対応していることを自分の生活や地域社会と結び付けて考え、表現している。</p>
ふかめる		<ul style="list-style-type: none"> 自分や地域の人々ができることについて表現し合い、考えを深める指導の工夫：安全な暮らしを守るために自分ができることの作品化・発信⑩ シンキングツール（ベン図）を使って自分の考えを深めることができる指導の工夫：前小単元（消防）と本小単元（警察）の学習をベン図にまとめ、共通点を話し合う。⑪ 	<p><目指す児童像></p> <p>安全な暮らしを守るために、関係諸機関と地域住民の連携や協力の重要性についての認識を深め、地域の一員としてできることを考えようとしている。</p>

7 学習指導計画（全11時間 本時 3/11）

時	ねらい	○主な学習活動・学習内容	□留意点 ◎資料 ◇評価（評価方法）
つかむ	① 身近な場所で起こりうる事故や事件の内容や、事故・事件発生時に対処する警察の仕事や地域の人々の取組について関心をもつ。	○絵資料から事故や事件発生の危険があると思われる場面を探し、その理由を説明し合う。 ・自転車の2人乗り ・道路での遊び ・自動車の信号無視等 ○自転車盗難事件に対処する警察を中心とした人々の動きについて予想を出し合う。 ・自転車の盗難事件を解決する警察の動きの予想	□自分たちの身近なところに事故や事件を発生させるきっかけがあることに気付くことができるよう具体的な絵資料やエピソードを提示する。 ◎絵資料「身近にひそむきけんなきごと」 ◎自転車盗難事件にまつわるエピソード ◇ア①（発言・記述）
	② 東京都の事故や事件に関するグラフをもとに話し合い、学習問題を作り学習計画を立てる。	○東京都の交通事故発生状況と死者・けが人のグラフや刑法犯発生状況のグラフを読み取り、そこから分かることや考えられることを出し合う。 ・年々、交通事故発生件数と交通事故死者数、犯罪が減っている理由の予想 ○学習問題を作り、学習計画を立てる。 ・学習問題例「事故や事件からわたしたちの安全を守るために、誰がどのようなことをしているのだろう。」 ○事故や事件から人々を守る仕事についてKWLシートに記入する。 ・事故や事件から人々の安全を守る人々 ・どのような働きをしているか。 ・事故や事件発生時の通報の仕方 ○学習計画を立てる。 ・調べる内容や調査方法（何を・どのように・いつ調べる）	□グラフの結果には、人々の工夫・努力が関係していることに気付けるよう助言する。 ◎グラフ「交通事故発生件数」「交通事故死者数」「過去5年間の刑法犯発生状況」 □学習問題や学習計画を決める際には、消防の学習経験を活かすよう促す。 □学習の見通しをもつための参考になるようKWLシート（K：知っていること W：知りたいこと L：学んだことを記入するワークシート※Lは随時記入）を配布し、記入させる。 ◇イ①（発言・観察・KWLシートへの記述）
調べる	③ 事故や事件に対処する関係諸機関の連携の様子を調べ、その意味を考える。 <本時>	○110番通報のしくみや関係諸機関との連携の様子を予想する。 ○小グループで話し合いながら関連図に表現しながら調べ、連携して対処している意味を考える。 ・通信指令センターが連絡する機関と指令内容	◎関連図「通信指令センターの仕組み」 □関係諸機関の連携の様子をとらえやすいよう関連図シート（個人・小グループ用）を配布する。 □関連図作成の際には、消防の学習経験を活かすよう促す。 □予想や意見を出すときには、理由も述べるよう助言する。 ◇ア①エ①（発言・観察・関連図・学習感想）

	<p>④ 事故防止のために働く警察署の人々の仕事の様子を調べる。</p>	<p>○警察署を見学し、警察署の人々の仕事の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や事件発生時の対応の仕方 ・事故や事件防止の取組 ・警察署内の施設・設備 ・警察官の仕事内容 ・仕事に対する思い・工夫・努力 ・人々の安全を守る上で皆に伝えたいこと <p>○見学の礼状を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく知ったことや気付いたこと ・これまでの考えが変わったこと ・人々の安全を守るについて考えたこと 	<p>◎警察署内の施設・設備・警察署の人の話</p> <p>□見学のよさを生かし、問題解決のために観察する必要のあることや聞く必要のあることを意識させる。</p> <p>□礼状を書くことを通して、自分の考えの変容や意識の高まりに気付けるよう内容の視点を示す。</p> <p>◇ウ①②（見学メモ・礼状）</p>
	<p>⑥ 地域の安全を守るための設備の設置について調べる。</p>	<p>○学校周辺に設置されている安全なくらしを守るものを小グループで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何がどこにあったか。 ・どんな働きをもつ設備か。 <p>○地図に表し、意図的な設置に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜその場所に設置されているのか。 ・誰が設置しているのか。 	<p>◎文章「市役所の人のお話」</p> <p>◎写真「地域で見つけた安全なくらしを守るための工夫」</p> <p>◎学校周辺の事故・事件防止設備</p> <p>□具体的な調査活動や地図に表す活動を通して安全なくらしを守ろうとしている人々の意図を実感できるようにする。</p> <p>◇ウ②（地図・発言・学習感想）</p>
	<p>⑦ 地域の人はどうのようにして、まちの安全を守っているのか調べる。</p>	<p>○安全を守るために活動している地域の方のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時の見守り ・こども 110 番の家の協力 ・活動に対する思い・工夫・努力 ・皆に伝えたいこと <p>○礼状を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく知ったことや気付いたこと ・これまでの考えが変わったこと ・人々の安全を守るについて考えたこと 	<p>◎写真「交通安全当番」</p> <p>◎ステッカー「こども 110 番」</p> <p>◎安全を守るために活動している地域の方のお話</p> <p>□礼状を書く際には、第 5 時と同様に内容の視点を示す。</p> <p>◇エ②（発言・礼状）</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑧ 学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>○「警察」「役所」「地域」のそれぞれの立場から町の安全を守る取り組みをしていることを関連図にとり、連携・協力の様子を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察の役割 ・役所の役割 ・地域の人々の協力 <p>○関連図の中に「自分」を位置付け、その理由を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人の連携・協力の中で守られている自分 	<p>◎これまでの資料</p> <p>□関連図の説明では、学習問題に対する自分の考えを表現することを意識させる。</p> <p>□自分と地域とのかかわりについての説明では、自分ができるところを意識して表現するよう促す。</p> <p>◇イ②エ②（発言・関連図）</p>

			・安全な暮らしを守る上で自分ができること	
ふ か め る	⑨	安全な暮らしを守るために自分ができることを考え、作品化して発信する。	○これまでの学習や統計・文章資料をもとに事故を防ぐために「より安全なまちをめざしてステップアップ大作戦！」として誰にどんなことを呼びかける必要があるか検討する。 ・どのような事故や事件が多いか。 ・どのような呼びかけが必要か。 ○ポスターや標語にまとめる。 例・自転車事故が多い傾向にある学年の子どもたちに：自転車に乗る際の注意点や交通ルールを守ることの大切さを ・ヘルメットの着用率が低い傾向のある学年の子どもたちに：ヘルメット着用のメリットを ・家族に：個人情報聞き出し電話への注意 ○作品に込めた思いを説明する。 ・どのような意図をもって作品を作ったか。 ・どのようなことを伝えたいのか。	◎表「子どもの自転車ヘルメット普及・着用状況調査」 ◎グラフ「小学生の交通人身事故発生状況」「状態別学年別発生状況」 ◎記事「自転車に乗った小学生と歩行者との衝突事故の損賠賠償訴訟について」 ◎ちらし「不審者注意」 ◎学校配信メール「個人情報聞き出し注意」 ◎これまでの学習の記録・資料 □作品化して発信する必要感が高まるよう、誰に何を呼びかけるかという相手意識をもたせる資料を提示する。 □作品にどのような思いを込めたのかについて具体的に自覚し、それが相手にも伝わるよう作品を説明する場を設定する。 □受け手の感想が得られるよう依頼しておく。 ◇ア②イ②（発言・作品）
	⑩		○前小単元（消防）と本小単元（警察）の学習をベン図にまとめ、共通点を話し合う。 ・自分の身は自分で守ることができること（自助） ・地域の人々が協力することで人々の安全を守る取組があること（共助） ・消防・警察・役所など関係諸機関が連携して対処していること（公助）	□大単元「安全な暮らし」の学習を通しての考えの深まりに気付けるようベン図による表現活動を設定する。 ◇イ②（発言・ベン図）

8 本時の指導（3／11）

（1）本時のねらい

事件発生時の通報の仕組みや関係諸機関の連携の様子を予想し、関連図に表現しながら考え、連携や協力の意味が分かり、学習感想に書くことができる。

	○主な学習活動 ・内容	◎資料 □留意点 ◇評価
つかむ 15	<p>○「自動販売機でジュースを買おうとしていたあなたは「どろぼう！」という声を聞きました。振り向いたら、少し先の電柱の所で、バイクに乗った男に鞆をひったくられたおばあさんを目撃しました。おばあさんは、電柱の所にしゃがみこんでいます。犯人は既にバイクで走りさって行ってしまいました。時刻は午後3時。あなたは携帯電話を持っていますが、辺りに人はいません。あなたならどうしますか。」という想定のもと、ロールプレイをしたり、見たりしながら自分のとるべき行動を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・110番通報 ・通報の内容（事故か事件か・事件発生時刻） ・事件現場の住所（自動販売機や電柱に示されている住所表示の利用） ・自分の名前・住所 	<p>□事件の第一発見者としての立場に身を置くことで、自分ができることを考えられるようにし、通報によって関係諸機関が事件に対処していることに気付かせる。</p> <p>□ロールプレイの場の設定により、通報の際の具体的な対処の仕方について表現しながら考えられるようにする。</p> <p>◎イラスト「事件発生時の場面絵」</p> <p>◎写真「自分のいる場所が分からないときの手がかりとしての電柱や自動販売機の住所表示」</p>
調べる 20	<p>○110番通報後の関係諸機関の連携の様子を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信指令センターから連絡を受ける機関（警察署、交番、白バイ、消防署） <p>○関連図をもとに通信指令センターからどのような指令がいくか、事故現場ではどのような対処をするのか小グループ内で予想を出し合い、ロールプレイを通して話し合う。</p> <p>○資料で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察署へ：事件の内容を調査 現場付近の交通整理 二次被害の防止 犯人に関する情報収集・追跡 ・消防署へ：救急車によるけが人の搬送 <p>○関連図から分かる事故に対応する人々の工夫をキーワードにして出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力・スピード（速さ）・正しさ ・安全・人命救助 	<p>□関連図作成の際には、消防の学習経験を活かすよう促す。</p> <p>□関係諸機関の連携の様子をとらえやすいよう関連図シート（個人・小グループ用）を配布する。</p> <p>□通信指令センターからの連絡は、どこが受けて動くのか各自が予想した後、関連図を小グループで作成することで、互いの考えをやりとりできるようにする。</p> <p>□予想や意見を出すときには、理由も述べるよう助言する。</p> <p>◎写真「通信指令センター」</p> <p>◎関連図「通信指令センターのしくみ」</p> <p>◎文章「通信指令センターの人の話」</p> <p>□完成した関連図を見直し、キーワードを出し合うことを通して関係諸機関の連携の意味を見出せるようにする。</p> <p>◇ア①（発言・観察・関連図）</p>
まとめ 10	<p>○本時の学習を通して分かったことやさらに調べたいことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で分かったこと ・今日の学習で考えたこと ・火災に対処する人々との比較 ・さらに調べたいと思ったこと 	<p>□学習感想を書くことを通して警察署見学への意欲や見通しをもてるようにする。</p> <p>◎関連図「通信指令センターのしくみ」</p> <p>◎文章「通信指令センターの人の話」</p> <p>◇エ①（発言・学習感想）</p>

9 板書計画

10/15 安全なくらし (けいさつ)

学習問題

「事故からわたしたちの安全を守るために、誰がどのようなことをしているのだろう。」

あなたならどうする。

盗難事件イ
ラスト

自動販売
機写真

電柱写真

- ・ 110 番通報
- ・ いつ・どこで・だれが・何をした

児童に配布した関連図の拡大図

- ・ この図から分かること(キーワード)
速さ・協力・安全・正しさ
- ・ 学習のふり返し
分かったことは～
さらに調べたいことは～
火災発生の場合と比べて